文部科学省
地(知)の拠点

合同企業等見学会 in むつ 第４弾

報 告 書

～新しい魅力との出会い～

青森中央学院大学 COC+事業推進事務局

COC＋（プラス）事業について

COC（Center Of Community ～地域の拠点、地域を地に置き換えて地(知)の拠点という言い方をしています）＋（プラス）事業とは、オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業のことです。

１　事業の目的

青森県の最大の課題である「人口減少克服」のために、青森県内の大学・短大・高等専門学校計 10 校と、青森県、青森市・弘前市・八戸市・むつ市の 4 市、100 を超える県内企業・団体・NPO などによる「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一丸となって取り組み、令和元年度までに、学生の青森県内への就職率を平成 26 年度から 10%向上させることを目標にしています。

２　事業の内容

青森県内での就職・起業を支援します。アドバイザーによる起業支援、地元企業の若者ネットワークづくり、就職後のキャリアアップ支援、学生企画による企業調査、就職説明会などを行います。

地元企業・地域共育型インターンシップ、女子学生のキャリア支援プログラム、学生発起業実行プログラムにより、青森県の未来を担う人財を育成します。

青森県の強みであるアグリ、ライフ、グリーン、ツーリズムの 4 分野において、大学発新産業で雇用創出を目指します。

目　次

ページ

はじめに・・1

Ⅰ　合同企業等見学会 in むつ実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅱ　見学会の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅲ　学生と企業関係者等との交流会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

Ⅳ　参加学生の感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

Ⅴ　アンケート集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

あとがき・・39

はじめに

「合同企業等見学会 in むつ」は、平成 28 年度から始めて今回で 4 回目となります。この事業の目的は、県内の学生に対してむつ下北地域の企業等の実情をよく知ってもらい、就職やインターンシップの選択肢の一つとしてもらおうということにあります。ご承知のとおり、むつ下北地域には、大学等の高等教育機関がありませんが、学生がいないのなら県内の学生に来てもらって、むつ下北地域の働き方、暮らしをみてもらおう、というのがこの事業の趣旨です。4 回目となる今年度は弘前大学から 5 名、青森中央学院大学から 6 名（全員外国人留学生）の合計 11 名の学生が参加しました。

この見学会は、むつブロックの坂本コーディネーターがむつ下北地域の企業等まわりをして、従業員数がある程度の規模であることや過去に大学生を採用あるいは今後採用予定があること、職種が偏らないことなどを考慮して見学会の受入れ企業等を確保することから始まります。今年度は、小売、整備、建設、観光の各業種の企業のほか、社会福祉法人など多種多様な企業等を訪問しましたが、建設関係では、現在、むつ市が利用者の目線に徹して建設を進めている「むつ市総合アリーナ建設現場」を見学しました。普段、見ることができない建設現場の見学は、学生にとって大いに刺激になったようでした。

4 回目となった企業等見学会で感じたことは、年々、企業のプレゼンテーション力が高まっていることです。「会社の目指していることは何か」「どんな人財を求めているか」「給与をはじめ待遇はどうか」など、ストレートに学生の心に訴えかけているのが印象に残りました。受入れてくれた企業等の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、昨年度に引き継き、今年度も「学生と企業関係者等との交流会」を開催しました。この交流会は普段あまり接することのない学生と企業関係者が直接集い、「学生と共に自社の特徴を整理してみよう」をテーマに、ワークショップ形式で本気と本音の交流会を行ったものであります。学生にとっては企業関係者と直接意見交換することができて、貴重な経験になったと聞いています。

さて、「継続は力なり」という言葉があります。COC+事業は今年度で終了しますが、この見学会に参加した学生にとっては、進路を考える上で役立ったものと思われます。また、むつ下北地域の企業等にとっても、自社の発展を考える上で大きな刺激になったのではないでしょうか。

今後とも、県内大学生とむつ下北地域の企業等との出会いの場が、なんらかの形で継続していければと思っています。

青森 COC+推進機構
青森ブロック・コーディネーター
佐藤　仁

Ⅰ　合同企業等見学会 in むつ実施要項

合同企業等見学会 in むつ実施要項

１　実施期間　令和元年９月１２日（木）～１３日（金）

２　行　　先　むつ下北地域

３　目　　的　県内の学生及び本県へのＵ・Ｊ・Ｉターン希望者が、むつ下北地域の企業を訪問し、学生等がむつ下北地域の企業を実地に知ることにより、インターンシップや就職の場としての選択肢を拡大する。

４　参加学生　青森中央学院大学　経営法学部６人
弘前大学　理工学部２人、人文社会科学部２人、教育学部１人

５　引 率 者　青森中央学院大学　COC+事業推進事務局
青森ブロック･コーディネーター　　佐藤　　仁

青森 COC＋推進機構
むつブロック･コーディネーター　　坂本　謙二

国立大学法人弘前大学　COC 推進室　　須田　誠一
中村　康人

むつ市企画政策部市民連携課　　橋本　佳奈

6　スケジュール

月 日	時　間	内　容
9/12	8:00 ~ 9:00	弘前大学発→青森中央学院大学着
(木)	9:00 ~ 11:10	青森中央学院大学発→むつ市役所着
	11:30 ~ 12:00	オリエンテーション(むつ市役所 会議室)
	12:00 ~ 12:50	昼食・休憩
	12:55 ~ 13:00	移動
	13:05 ~ 14:10	①　社会福祉法人 青森社会福祉振興団
	14:10 ~ 14:15	移動
	14:20 ~ 15:20	②　株式会社 マエダ
	15:20 ~ 15:25	移動
	15:30 ~ 16:40	③　株式会社 大湊精電社
	16:50 ~	移動（宿泊先：ホテルニューグリーン）
9/13	8:50 ~ 9:00	移動
(金)	9:10 ~ 10:40	④　むつ市総合アリーナ建設現場
	10:40 ~ 10:50	移動
	11:00 ~ 12:00	⑤　グリーン観光産業 株式会社
	12:00 ~ 13:00	昼食
	13:10 ~ 14:40	企業関係者等との交流会
	14:40 ~ 14:45	記念写真撮影
	14:50 ~ 17:10	むつ市発　→　青森中央学院大学着
	~ 18:10	弘前大学着

7　訪問企業

① 社会福祉法人 青森社会福祉振興団
〒035-0067　むつ市十二林 11 番 13 号
TEL 0175-23-1600　FAX 0175-23-1601
② 株式会社 マエダ
〒035-0071　むつ市小川町二丁目 4 番 8 号
TEL 0175-22-8333　FAX 0175-22-4226
③ 株式会社 大湊精電社
〒035-0084　むつ市大湊新町 8 番 5 号
TEL 0175-24-1181　FAX 0175-24-1192
④ むつ市総合アリーナ建設現場
むつ市真砂町 93−27
※ウェルネスパーク・しもきた克雪ドーム隣接地
⑤ グリーン観光産業 株式会社
〒035-0033　むつ市横迎町 1-2-8
TEL 0175-22-6111　FAX 0175-22-6115

８　オリエンテーション

オリエンテーション次第

日時：9 月 12 日(木)　11：30～
会場：むつ市役所　第 3 会議室

１．主催者挨拶
青森 COC+推進機構　青森ブロック・コーディネーター　佐藤　仁

２．歓迎の挨拶
むつ市企画政策部市民連携課長　野坂　武史

３．先輩から一言
平成 29 年度　青森中央学院大学卒
むつ市総務部防災安全課　主事　俵山　歩

４．青森 COC+推進機構　むつブロック事業の紹介
むつブロック・コーディネーター　坂本　謙二

５．合同企業等見学会 in むつのスケジュール説明
同上

Ⅱ　見学会の様子

1　社会福祉法人 青森社会福祉振興団

〒035-0067　むつ市十二林 11 番 13 号

TEL 0175-23-1600　FAX 0175-23-1601

理事長　中山辰巳　人材部 伊藤奏平（担当）

【企業情報】

・むつ市を中心に、介護福祉事業を幅広く展開。
・介護・医療・食のトータルケアをめざし、クリニックや真空調理工場を設けています。
・福祉の未来を見据えて、国内外において事業拡大中。
・ベトナムでの人材育成、ICT ロボットを活用した新しい介護の創造に取組んでいます。
・医療・福祉系職種を目指す方のために、まるめろ奨学制度を設けています。
・多様な施設を展開しています。
特別養護老人ホームみちのく荘、みちのくデイケアセンター、
グループホームまるめろ、みちのくヘルパースクール、
みちのく城ヶ沢フードセンター、地域包括支援センター、
ベトナム／フエ事業所（介護人材養成コース）、みちのくクリニックほか。

2　株式会社 マエダ

〒035-0071　むつ市小川町二丁目 4 番 8 号

TEL 0175-22-8333　FAX 0175-22-4226

代表取締役社長 前田惠三　総務部 木村健治 虻川麻衣（担当）

【会社概要】

・1977 年会社設立　年商 294 億

・経営理念　「先行半歩」知恵を出し、力を惜しむな、行動せよ
　　お客様の買い物の幸せを実現する。

・シンボルマーク 青森県の鳥ハクチョウ　店舗数 38 店舗　従業員数 1,367 名

・地産地消、地域密着、環境問題にこだわる。

　地産地消　地元の産品を積極的に販売

　地域密着　1,800 世帯以上あれば過疎地域でも出店、お買い物バス

　環境問題　古紙回収リサイクル、生ゴミのリサイクル、廃油リサイクル

・女性の店長も誕生している

・他人が休みの時に忙しいが、平日に休みのため用事を足すことができ、観光地もすいている

・県内の企業の中でも処遇はよい方である（諸手当、給料、ボーナス等）

3　株式会社 大湊精電社

〒035-0084　むつ市大湊新町 8 番 5 号

TEL 0175-24-1181　FAX 0175-24-1192

代表取締役会長 西村健　代表取締役社長 柳谷敬　取締役総務部長 四戸希雄

総務部総務資材課 関向安裕子（担当）

【会社概要】

■社員数　135 名

■事業内容

海上自衛隊艦船搭載の電子機器類の装備工事、保守点検

海上自衛隊陸上装備の電子機器類の装備工事、保守点検

海上自衛隊艦船修理、各種機器類の保守点検整備

海上自衛隊艦艇機雷の保守整備

■関連業務

電気工事業、管工事業、電気通信工事業、水道施設工事業、消防設備工事業、土木工事業、機械器具設置工事業、タイル、レンガ、ブロック工事業、毒物劇物一般販売業、汚水・汚泥処理施設の管理、一般廃棄物・産業廃棄物の再生処理、コンピュータ用ソフト開発

4　市内建設会社の共同企業体（むつ市総合アリーナ建設現場）

むつ市総合アリーナの建設工事を担当している企業グループです。

連絡担当：むつ市役所まちづくり推進課　西村透

TEL 0175-22-1111（内線 2754）

【概　要】

■外部工事　山内土木 株式会社

代表取締役社長　山内　将邦

〒035-0084　むつ市大湊新町 37-12　TEL 0175-24-2231

■内部工事　株式会社 熊谷建設工業

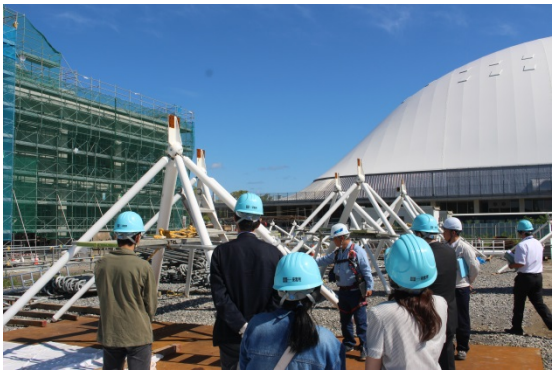
代表取締役社長　熊谷國治　専務取締役　熊谷　圭之輔（担当）

〒035-0073　むつ市中央 1 丁目 5-7　TEL 0175-24-1141

株式会社 橋本建設工業

代表取締役社長　橋本　大輔

〒035-0036　むつ市栗山町 12-10　TEL 0175-22-1104



5　グリーン観光産業 株式会社

〒035-0033　むつ市横迎町 1-2-8　TEL 0175-22-6111　FAX 0175-22-6115

代表取締役社長 兼 総支配人 鷹架則子　常務取締役 庭田良二

【会社概要】

むつ市内で、下記の 2 つのホテルを経営しています。

・ホテルニューグリーン（ビジネスホテル）TEL 0175-22-6121

・むつグリーンホテル（会議、宴会向きホテル）TEL 0175-22-6111

むつグリーンホテルの米ぬか酵素浴「健康小町」が有名で、女性に大人気で、酵素浴の湯治客もあるほどです。米ぬかの抗酸化作用や含まれる多様な酵素の機能性について、社長が熱く語ります。

Ⅲ　学生と企業関係者等との交流会

「学生と企業関係者等との交流会」概要

日　時：令和 1 年 9 月 13 日（金）午後 1 時 10 分～2 時 40 分

会　場：むつグリーンホテル

次　第：　1　挨拶
　　2　ワークショップの説明
　　3　ワークショップ
　　テーマ：ワークショップを通じて学生と共に自社の特徴を整理してみよう
　　4　グループ発表（ABC グループ）

出席者名簿

会社名・団体名	所属・職名	氏　名
株式会社マエダ	総務部	虻川　麻衣
社会福祉法人青森社会福祉振興団	ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	寺田　優哉
社会福祉法人青森社会福祉振興団	人材部	伊藤　奏平
株式会社大湊精電社	総務部	坂本　慎之介
株式会社大湊精電社	総務部	関向　安裕子
株式会社熊谷建設工業	専務取締役	熊谷　圭之輔
グリーン観光産業株式会社	取締役常務	庭田　良二
青森中央学院大学	学生	6 名
弘前大学	学生	5 名
青森中央学院大学	青森 B.C.	佐藤　仁
青森 COC+推進機構	むつ B.C.	坂本　謙二
弘前大学	COC 推進室係長	須田　誠一
弘前大学	COC 推進室	中村　康人
むつ市企画政策部	市民連携課主事	橋本　佳奈
一般社団法人 tsumugu	代表理事	小寺　将太

合計 24 名

交流会ワークショップのまとめ

テーマ：ワークショップを通じて学生と共に自社の特徴を整理してみよう

学生が就職内定を承諾するには、いくつかポイントがあるそうです。その一つに、「周囲にも言える企業の特徴が見つかったとき」があげられています。就職先の特徴を、自分の言葉で簡潔に言えるとき、「この企業でよい」と内定を承諾できるのだといいます。
「就職先の特徴を簡潔に言える」、これを裏返せば、企業の側は求人にあたり、自社の特徴を簡潔に伝える必要がある、ということになります。
企業の特徴は、１．事業　２．仕事　３．風土　４．待遇　の４つの言葉で表すことができるといいます。
今回のワークショップでは、学生の心に響く４つの特徴を簡潔に伝えましょう。学生の皆さんは、就職活動をするときに、これら４つの特徴が明確に語られているか注目し、企業の特徴を把握するのに役立ててください。

Ａ～Ｃのテーブルごとに行われたワークショップで出された意見をまとめてみましたが、異なる業種の企業が同席しているために、内容が混在していることをご了承願います。

事業-学生にとっては・・「誇り」

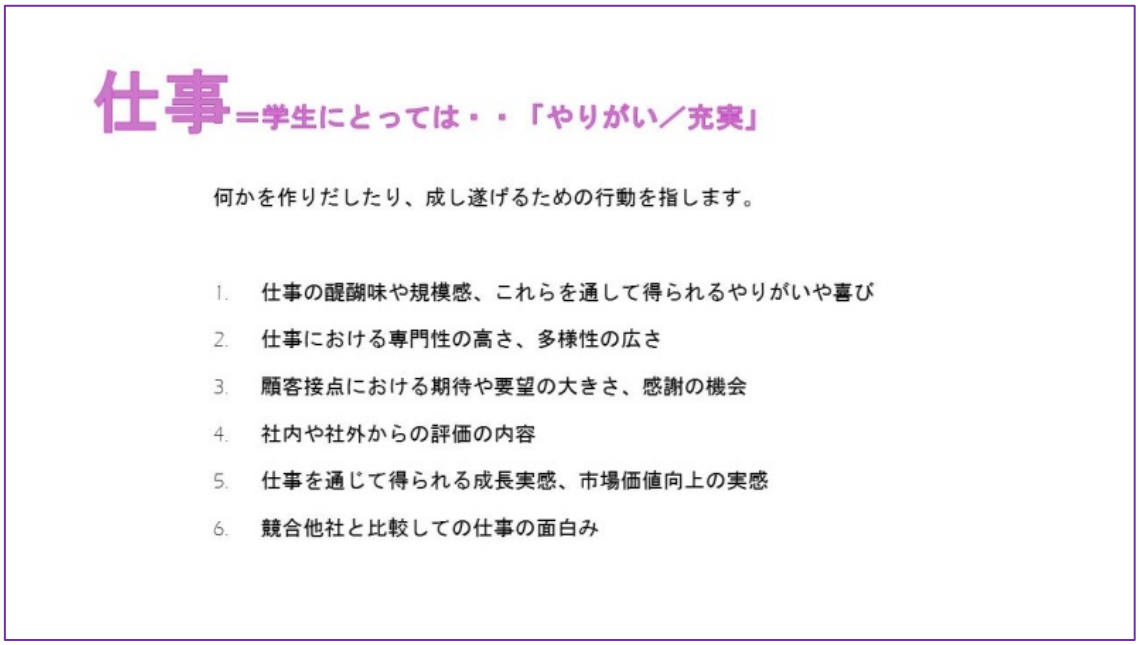
生産・営利など、目的を持って組織を経営する仕事を指します。とくに大きく社会に貢献するような仕事や社会的使命について語ります。

1. 会社の売り上げ･利益や成長性や安定性と行った業績面での実績
2. 会社の理念やビジョン、大切にしている考え方
3. 事業内容や商品サービスの独自性や優位性、業界でのポジション
4. 顧客や社会への影響力、社会貢献、企業ブランド力
5. 企業の成長段階フェーズ、環境変化への事業対応力や組織対応力

事　業

・地域に対する貢献度が社員のプライドに結びついている。
・その企業ならではの独自性で勝負している。
・将来を見据えた戦略、ICT, IoT, の導入で独自性を出している。
・地域の未来を牽引する建設業（人の内面に着目した建築)、「造る真心」。

〈グループ A〉



仕　事

・ロボットにはできない人間ならではの臨機応変の接客でお客さんの心をつかむ。

・予算と実際の現場とのバランスが難しい。

・プロ意識をもった接客。

・困難な仕事ほど完成した時の達成感が大きく、チャレンジする気持ちが大事。

・提案力が満足度の向上につながる。

・ICT, IoT, の導入によるシフト管理、ドローンによる測量や撮影。職員の負担軽減。

〈グループ B〉

風土＝学生にとっては・・「仲間」「成長」

人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境を指します。

1. 裁量権や責任の範囲といった仕事の任され方、仕事の進め方の特徴
2. 経営者や上司との距離やコミュニケーションの内容
3. 部署間、部署内、同年代での距離やコミュニケーションの内容
4. 性別不問、学歴不問で任される業務や昇進のスピード
5. 職場の雰囲気、社内イベントや交流の機会
6. 新たな事業や商品サービスを提案する機会、仕事の表彰や褒賞の機会

風　土

・上司に相談しやすい雰囲気づくり（不安や不明な点を解消させる）。
・技術習得の研修や専門的技術の競技会の開催。
・女性技術者の育成。
・ホウレンソウ（報告、連絡、相談）の機会を大切に。

〈グループ C〉

待遇=学生にとっては・・「心の安定」

給与や勤務時間など、雇用者の勤労者に対する取り扱いを指します。

1. 給与や賞与、各種手当といった金銭的報酬
2. 人事評価制度や給与体系といった人事諸制度、福利厚生の充実
3. 社員教育への姿勢や教育体系、教育プログラムの内容
4. 残業や休日休暇、勤務地の利便性、海外勤務や国内他県での勤務の可能性

待　遇

・各種手当で厚いサポート
　（資格取得や受験料の補助、各種検診の補助、忌引きに対する諸手当）
・有給休暇の取得率の向上。
・誕生日休暇の導入。
・新入社員には専任の先輩をあてる。
・社員および社員の家族を大切にする。
・外国人の採用枠を設けている。

〈まとめ・発表の様子〉

Ⅳ 参加学生の感想文

参加学生の感想文

１．見学会を振り返り感想を書いてください
２．今回の見学会で発見したことは何ですか

青森中央学院大学　経営法学部　J さん（留学生）

１．来年、就職活動をはじめるが、具体的にどのようなことをやっているか、企業内にどのような雰囲気があるかまだ知らないため、実際に働いているところを見ることができるのではないかと考え、今回の見学会に参加した。
　今回の 2 日間の見学は、ただ企業の人から話を聞くことではなく、ふつうに見られないところまで見ることができ、非常にいい経験になった。

２．今回の見学会で発見したことは、企業の情報について知ることだけではなく、見学した企業を通じて、自分はどのような仕事に向いているかもわかるようになった。
　また、2 日目の意見交換会では企業の人から話を聞き、企業によって大切なことについては共通点や相違点が理解できた。

青森中央学院大学　経営法学部　N さん（留学生）

１．以前、私は日本の企業について印象が全く無かった。日本人従業員の働き方を知りたい、また、就職活動のために、今回の合同企業等見学会に参加した。さまざまな仕事と人々に出会うことで、自分の世界観が広がってきた。自分にとってやりがいがある仕事や業界もわかってきた。
　今回の見学会は非常に良い経験だった。また、今後、このような見学会があるとしたら積極的に参加したい。

２．企業関係者との交流会で、日本人と楽しく話し合うことができた。各企業の特色や制度もわかってきた。日本企業の雰囲気は、他国とは違い、上司・部下の関係ではなく、ファミリーのような雰囲気で、効率的に働くことができると思う。それは、私にとってもっとも大事な発見だと思っている。

青森中央学院大学　経営法学部　D さん（留学生）

１．今回の企業見学はおもしろくて、いろいろ勉強できた。本当にありがたいと思う。2 日間の見学を通じて、各企業の企業形態や経営方針、求める人材などを知ることができた。私の来年の就職活動に大いに役立つと思う。
　また、2 時間で移動したので、疲れを感じたが、むつ市の方々のあたたかい歓迎のおかげで、私の疲れがすぐ消えた。そして、特に私の母国語であいさつされて、うれしかった。どうもありがとうございました。

２．外国人である私は日本の医療機器がかなり現代的だと知っているが、「社会福祉法人青森社会福祉振興団」に来て、現場を見学した上で、日本ほど最新の医療機器を持っている国はないのではないかと思った。老人の健康をチェックしながら、その人のプライバシーを保護できる機械があり、それが本当に素晴らしいと思う。
　私は自国にもこれらの機械があれば良いと思ったので、将来、できれば自国にこれらを導入したいと思う。

青森中央学院大学　経営法学部　L さん（留学生）

１．今回の見学会ではとても良い経験をさせてもらった。合同企業等見学会 in むつに参加できると聞いた時は、とても嬉しく、楽しみにしていた。9 月 12 日、13 日という 2 日間は短いが、むつ市の 5 社が見学でき、弘前大学の学生と交流し、友達になって楽しかった。わかりやすい説明や案内をしてくださった企業の方々や、このような機会を設けてくださった方にとても感謝している。
　私にとって、特に印象的であったのが「マエダ」です。マエダでは企業内容等従業員の方からお話を聞くことができた。スーパーマーケットについて、詳しく知ることができた。今後の進路に役立てていきたいと思っている。本当にありがとうございました。

２．今回、私は初めてむつ市に行った。自分のイメージでしか想像することができなかったが、実際にむつ市に行ってみると非常に住みやすそうな街だと思う。素晴らしい自然で、きれいな海が見え、緑が多くて良いところだと感じた。
　今回の見学会では、もっとも良かったのは「マエダ」という会社である。スーパーマーケットのことや企業内容を従業員からお話が聞けて良かったと思う。
　おかげさまで、見学会の後、私にとって大変有意義なものとなったと感じて

いる。今回の見学会は自分にとってすごくいい経験となり、将来の道を決めることができたので、本当に良かった。

青森中央学院大学　経営法学部　Ｌさん（留学生）

１．今回むつ市にある５社の企業見学をでき、とても良い経験ができたと思う。むつ市に行ったことがないが、むつ市のことについてさまざまなことを聞いたことがある。観光地のことなどだが、どんな企業があるか知らなかった。２日間の見学のおかげで、どの企業もそれぞれ特徴があり、ふだん見ることのできない場所を見ることができて良かった。

２．今回私は初めてむつ市に行った。今までむつ市に行ったことがなかったため、自分のイメージでしか想像することができなかったが、実際に行ってみると非常に住みやすそうな街だと感じた。
　むつ市で働くなら地域貢献できる企業の他に、工業やサービス業もあり、どれも働きがいがある。

弘前大学　教育学部　Ｓさん

１．今回の見学会にはまだ自分が教師になるのか、ふつうに就職するのか決まっておらず、何か参考になればと思い参加した。実習などを通して教師の大変さややりがいを見て、体験して、これからの実習や学習でも新たな考え方などを得て行けると思う。しかし、今回の見学会でさまざまな職種の方の話を聞き、教師以外の道に対する意欲が強くなった。
　まだ２年生なので今は学部の勉強を大事にしつつ、将来に役立てられるように自分に落とし込んでいきたい。

２．ほとんどの企業でパソコンなどの最先端技術を取り入れていた。また、むつ市という都市ではない場所で、日本に数少ない技術を持っていることもあり、意外だった。地方だからといって都市からの仕事の請け負いなどではなく、地方だからこそできることを追求している姿勢を見ることができた。
　今では地方の企業が注目されることが多いが、そうした現状を間近で感じられ、新鮮だった。

弘前大学　人文社会科学部　K さん

１．私はまだ１年生で、就職に関してあまり知識が無く、明確な進路希望も定まっていなくて、就職に対する意識が低かったのだが、実際に企業見学に参加してみて、意識が変わった。企業を訪問して、詳しい説明を聞いたり、お仕事内容を見せてもらったりという機会が今までなかったので、今回このような本格的な見学会に参加することができてよかった。

今回見学した企業の業種は、高校生の時までは、希望する就職先としては考えたことがなかったが、どの企業も自分が知らなかっただけで、自分の特技や経験をいかすことができそうな分野もあるのだと気づいた。

２．特別養護老人ホームみちのく荘さんでは、介護がしやすいようにするための先進的な装置を備えていて、他県からも見学に来るということを伺ったが、むつ市で日本の最先端の設備がある老人ホームがあるということは初めて知り、新しい発見だった。

その他の企業も、ほとんど共通して業務の IT 化が進んでいると感じた。職員同士のやりとりをインカムで行ったり、情報をタブレット端末で管理したり、顔認証システムを導入したりするなど、今の時代の仕事では、そういった技術をうまく使っていくことが重要であると感じた。

弘前大学　理工学部　W さん

１．私は就職について、自分がどんなことをしたいかわからず、少しでも自分の将来の参考にしたいと思い、見学会に参加した。

むつの企業というと、ぱっと思い浮かぶのはなかった。しかし、青森市を始め他市町村に広く展開しているマエダの本店があったり、電子機器を導入し、最先端の技術を取り入れた老人ホームがあったりと、魅力的な企業がたくさんあることを知った。

また、むつ総合アリーナの建設現場の見学をさせていただき、建設の行程や、CAD での完成予定のものを見て、完成がすごく楽しみになった。

今回見学したどの企業も、顧客だけではなく従業員も大切にしていて、働きやすい環境が整っていると感じた。むつに就職するという選択肢が増え、参加して良かったと思った。

２．どの企業の方も、自分の会社を誇りに思っているように感じたこと。説明をしてくださったどの企業の方々も、堂々とはきはきとしていた。それは自分の会社が良いと思っているからできることだし、自慢できることがたくさんあるからだと思う。そこがとても素敵だと感じたし、私も、自分の会社を誇りに思える人間になりたいと思った。

弘前大学　理工学部　M さん

１．私は、周りの人が将来について具体的なビジョンを持っているにもかかわらず、自分にはそれが何もないことに焦りを感じていた。合同企業見学会が大学の講義で紹介され、この見学会が自分の将来を考える大きな一助になると確信し、参加を決定した。

実際に仕事を見学したり、説明を聞いて、資料を読んだり自分だけで見るのではわからないリアルな仕事の実態やさまざまな隠れた工夫を知ることができた。青森社会福祉振興団の老人ホームでは、お風呂の床は濡れても滑りにくい石を使用していたり、出口の自動ドアのボタンが高いところにつけられ、利用者の方が間違って外に出ないようにするなど、細かい工夫があった。

２．この見学会で発見できたことが 2 つある。1 つ目はただ働くだけではなく、地域のために働く企業があるということだ。特に株式会社マエダは、利益よりも地域貢献を優先させ、過疎地域にスーパーを作る取り組みをしていた。これによってその地域の人は買い物をするのに市を跨ぐ移動をせずにすむようになったそうだ。企業はとにかく利益を上げることを追求していくものだと思っていたので、感激した。

２つ目は就業時間や福利厚生など社員の配慮が充実していることが多いということだ。大湊精電社は年に 120 日休日があるという。ブラック企業の実態についていろいろと調べ、恐怖していた私にとって、これは驚くべきことだった。

企業になんとなく悪いイメージを持ち、そんな理由で公務員を目指そうかと考えていたが、この見学会でそれを払拭でき、選択肢が広がった。これからもいろいろな見学会などに参加し、進路を決定したい。

弘前大学　人文社会科学部　S さん

１．2 日に渡ったむつ市の企業見学を通して、各企業の仕事に対する熱意や誇りをひしひしと感じた。どの企業も「自社でしか行っていない」「他社よりも早く先端技術を取り入れた事業展開を行った」という技術や事業があり、独自性に優れているという印象を持った。また、過去から現在だけでなく、未来にも明確なビジョンと計画があり、既に形になっていることもあった点に驚いた。

特に、青森社会福祉振興団さんのみちのく荘では、将来ロボットを導入することを想定し、建物の設計段階から導入しやすい天井、広さ等にしていたというお話を伺い、先を見越す能力とその的確さ、そして新しいものを積極的に取り入れようとする姿勢に感銘を受けた。

むつに来たことも、交流会を含む企業見学会に参加したことも初めての経験であったが、将来のことを考える良い機会になった。参加できて本当に良かった。

２．むつで働くことや、むつ市の企業については、正直ほとんど知らなかったが、企業見学で企業の確かな技術力や先端技術を積極的に取り入れる姿勢を目にし、都市部のような他地域に負けないほどの事業も実績もある企業ばかりだと知った。

また、企業には、目的として自社の利益を上げるということがあるのはもちろんだが、それ以上に地域貢献もしているのだと知った。利益を還元していたり、むつに仕事をつくることで定住に貢献したりしていて、地域と一体になているのだと思った。

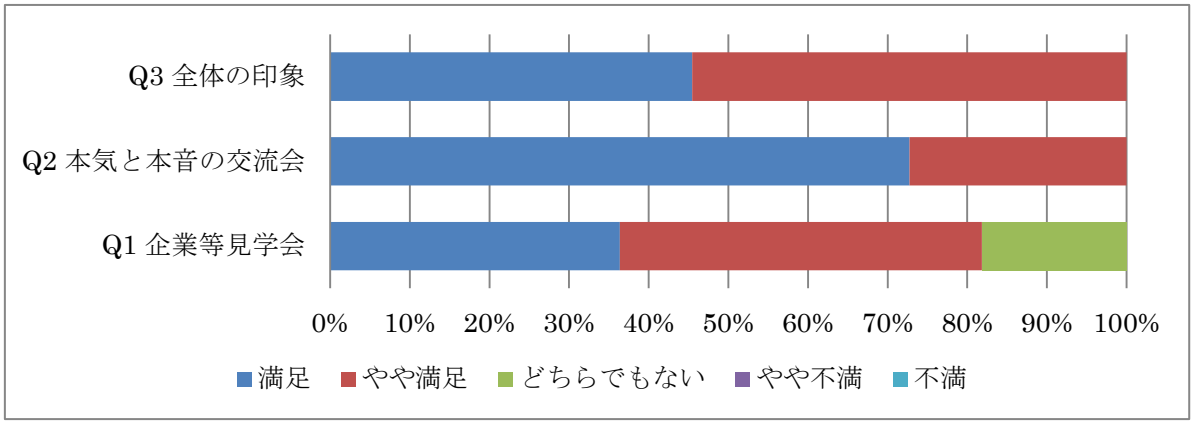
V　アンケート集計

アンケート集計（大学生）

１．「合同企業等見学会 in むつ」の満足度

今回の見学会では、むつ市内 5 企業等を見学してまわり、その後、企業関係者と大学生が 3 つのグループに分かれて「ワークショップを通じて学生と共に自社の特徴を整理してみよう」をテーマに話し合った。見学会と交流会、全体の印象の満足度をまとめた結果、いずれの項目も「満足」「やや満足」で 80%～100%と、高い満足度を示した。

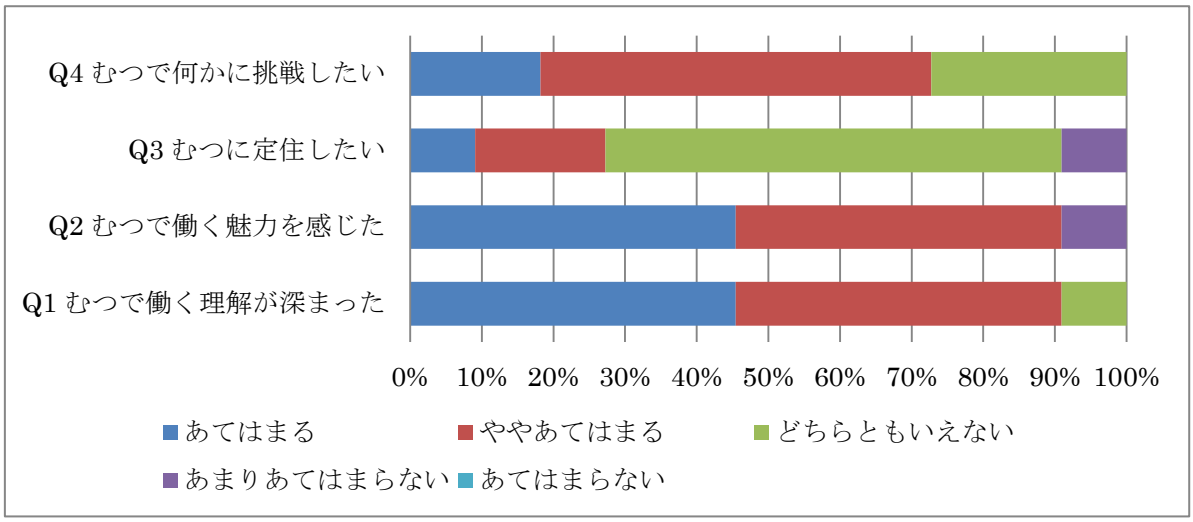
N＝11



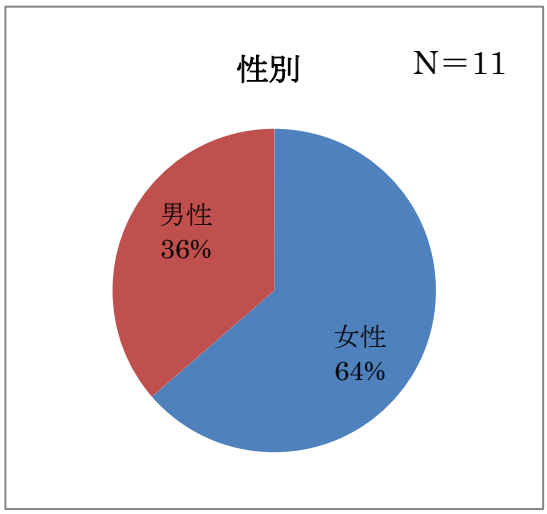
２．「合同企業等見学会 in むつ」に参加したことによる意識の変化

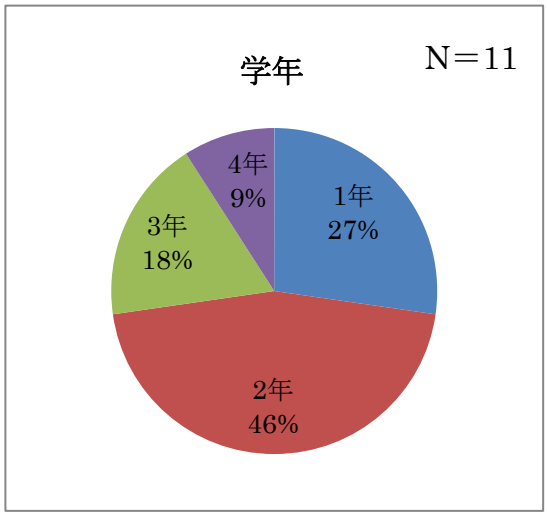
合同企業等見学会に参加して大学生の意識がどのように変化したのか、4 つの項目について「あてはまる」の割合を示した。むつで働くことの理解が深まり、魅力を感じて、挑戦したい気持ちを「ややあてはまる」も含め半分以上の学生が抱き、また、低いながらも「定住したい」と意識が変化した学生もいた。

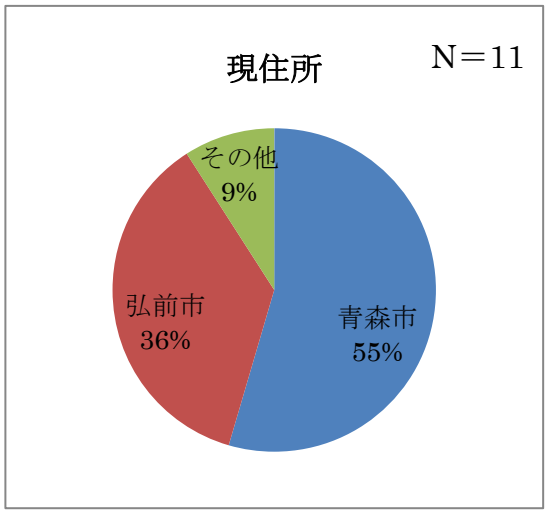
N＝11



３．アンケート属性とフリー記述







【気づいたこと】

もし入社して企業のことが何もわからなくても教えてくれる人がいる／外国人でも日本人と同じく対応する／むつ市のさまざまな会社･企業の働き方を深く理解できた／具体的なイメージができ、日本の会社がわかった／最先端の技術を取り入れている企業や、ICT で効率化をはかっている企業があり、他に遅れをとっていない／それぞれの企業に対して表面的なイメージしか持っていなかったが、全く知らなかった意外なことがたくさんあった／どの業種でも IT やロボットの導入の波がきているということに気づいた。特に、建設現場の顔認証による入場システムに驚いた／意外に最先端技術が導入されていた／いろいろな企業が自分たちのところで働くことを歓迎していること

【意見、感想等】

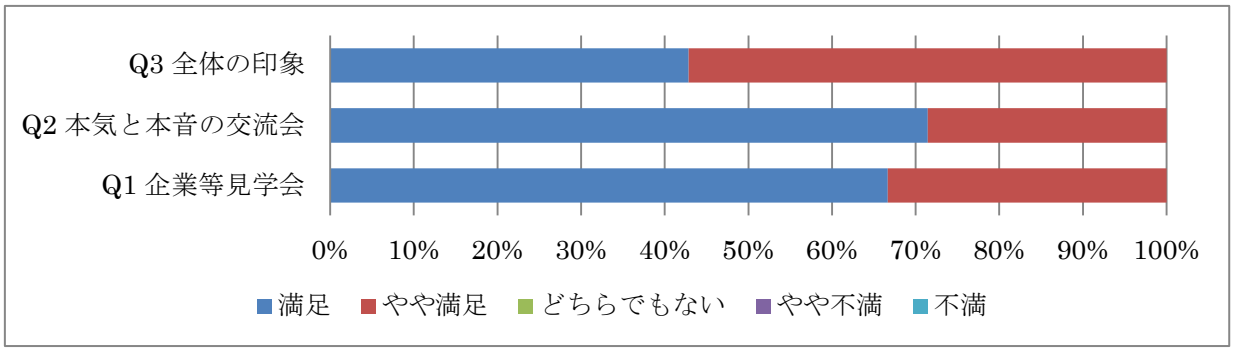
見学会は初めてだが、さまざまな知識を身につけたり、むつの企業を見学したり貴重な経験だと思う。意義のある活動／企業の方と実際に話したり交流することが緊張したが、とてもいい経験になった。ありがとうございます／企業の方々が一生懸命説明してくださってとても心に響いた／交流会に参加するのは初めてだったため、ここまで長く企業の方と濃い話ができたことがとても印象深かった／移動のときトイレに行く時間がほしい

アンケート集計（企業関係者）

１．「合同企業等見学会 in むつ」の満足度

交流会に参加した企業関係者を対象にアンケートを行い、見学会と交流会の満足度と、全体の印象をまとめた。全ての項目が「満足」「やや満足」となり、高い満足度を示した。

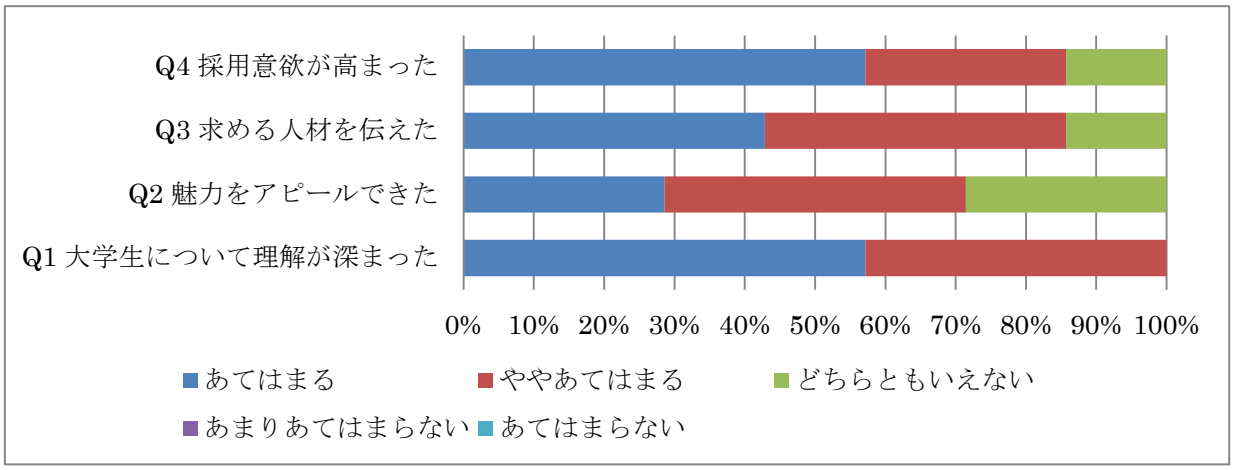
N＝7



２．交流会に参加したことによる意識の変化

交流会に参加して、企業関係者の意識がどのように変化したのかを示した。企業関係者全員が大学生についての理解が深まったことに「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。また、求める人材を伝えた、採用意欲が高まったということを 80%以上の方が感じているが、魅力をアピールできたと感じた方は 70%強で、全体より少し低い結果になった。

N＝7



３．フリー記述

【気づいたこと】
・学生が何を求めているのかがわかった（2 名）
・自分の会社の魅力と、足りない部分
・学生さんの質問に回答する時間を確保して欲しい
・生活の安定、働きやすさを重視していること

【意見、感想等】
・今回も楽しかった。ありがとうございました
・短時間で会社の魅力を伝えるのは難しかった。少しでも伝わっていれば良い
・むつの魅力をアピールする場がなかったように思う

アンケート用紙（大学生向け）

大学生向け調査票

「合同企業等見学会 in むつ」アンケートご協力のお願い

今回は「合同企業等見学会 in むつ」にご参加ありがとうございました。
今後の参考にいたしますので、下記アンケートにご協力ください。
1、2分で回答できるアンケートです。ぜひご協力お願いいたします。記入後は、回収箱に投函ください。

設問１　見学会の満足度をお知らせください。1～5 の選択肢の中から**一つ選んで○をつけて下さい。**

		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
Q1	合同企業等見学会	5	4	3	2	1
Q2	交流会	5	4	3	2	1
Q3	全体の印象について	5	4	3	2	1

設問２　見学会・交流会に参加して、以下の意識の変化はありましたか。
1～5 の選択肢の中から**一つ選んで○をつけて下さい。**

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
Q1	むつで働くことについての理解が深まった	5	4	3	2	1
Q2	むつで働くことの魅力を感じた	5	4	3	2	1
Q3	むつに定住したいという気持ちになった	5	4	3	2	1
Q4	むつで何かに挑戦しようという意識が高まった	5	4	3	2	1

以下の設問について、回答を記述して下さい。

Q5	見学会・交流会に参加したからこそ、初めて気づいた事柄があれば、それについて教えて下さい。 {　　}
Q6	その他、意見、感想等があれば、それについてぜひ教えて下さい。 {　　}

Q7	回答者ご自身について伺います。あてはまる選択肢の中から１つに○をつけて下さい。				
	性別	1. 男性		2. 女性	
	学年	１年	２年	３年	４年	大学院
	現住所	1. 青森市	2. 弘前市	3. むつ市	4. その他

ご協力、ありがとうございました。アンケート調査結果は本事業の目的以外で使用することはございません。

アンケート用紙（企業関係者向け）

企業関係者向け調査票

「合同企業等見学会 in むつ」アンケートご協力のお願い

「合同企業等見学会 in むつ」にご参加ありがとうございました。
今後の参考にさせていただきますので、お手数ですが、下記アンケートにご協力ください。
1、2分で回答できるアンケートです。ぜひご協力お願いいたします。記入後は、回収箱に投函ください。

設問１　今回の満足度をお知らせください。1～5 の選択肢の中から**一つ選んで○をつけて下さい。**

		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
Q1	合同企業等見学会	5	4	3	2	1
Q2	交流会	5	4	3	2	1
Q3	全体の印象について	5	4	3	2	1

設問２　見学会・交流会に参加して、以下の変化はありましたか。1～5 の選択肢の中から**一つ選んで○をつけて下さい。**

		あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	ややあてはまらない	あてはまらない
Q1	県内大学生の考え方、行動について 理解が深まった	5	4	3	2	1
Q2	県内大学生へむつで働く 魅力をアピールできた	5	4	3	2	1
Q3	県内大学生へ企業が 求める人材を伝える事ができた	5	4	3	2	1
Q4	県内大学生の 採用意欲が高まった	5	4	3	2	1

以下の設問について、回答を記述して下さい。

Q5	見学会・交流会に参加したからこそ、初めて気づいた事柄があれば、それについて教えて下さい。 {　　}
Q6	その他、意見、感想等があれば、それについてぜひ教えて下さい。 {　　}

Q7	回答者ご自身について伺います。あてはまる選択肢の中から１つに○をつけて下さい。			
	性別	1. 男性	2. 女性	
	経営者・社員	1.経営者	2.総務・人事担当者	3.社員
	現住所	1. 青森市	2. 弘前市	3. むつ市	4. その他

ご協力、ありがとうございました。アンケート調査結果は本事業の目的以外で使用することはございません。

あとがき

この事業を始めてから 4 年が過ぎ、のべ 50 名もの学生がむつ市を訪れ、のべ 23 企業が学生をうけいれて下さいました。参加してくれた学生のうち、1 名がむつ市職員として活躍しています。これが 4 年間の実績になります。来年、再来年には更なる良い結果がでるものと、淡い期待を抱いております。

参加した学生は、むつ市に来るのは初めての方が多く、「本州の最北にこんな会社があったなんて」と驚きの声をあげています。ということは、裏を返せば、むつ市の企業側がいかに情報発信をしてこなかったか？ということになります。

県内大学のキャリアセンターからは次のようなことを言われます。「関東以西の企業のほとんどは、求人票を大学のキャリアセンター宛てに直接送ってきます。しかも 3 月 1 日に。一方、県内の企業から求人票が送られてくるのは 6 月以降です。そのころ、すでに内定をもらっている学生はかなりの数にのぼります。県内企業の多くは、能力があり意欲のある学生を関東や関西に逃がしています」と。COC＋に加盟している大学で、県内就職希望者が 50%をこえているのに、就職実績では 38%前後になっているのをみると、この状況がよく分かります。

毎年、企業見学を受け入れてくださる企業では、回を重ねる毎にプレゼンテーションの方法や見学内容に工夫をこらし、学生たちの心をつかみ取る工夫が随所に見られ、1 時間ほどの見学時間をめいっぱい有効に使ってくださいます。毎年引率している私たちの目にも、新鮮さが感じられる見学会でした。

また、2 年前から実施しております「学生と企業関係者との交流会」では、6 名ずつ 3 テーブルに分かれてのワークショップになりました。今回は、「事業」「仕事」「風土」「待遇」の 4 分野にわけ、職員の方々から、わかりやすく簡単な言葉で説明していただき、その中から何がもっとも大切な言葉か話し合っていくという作業を試みました。予定していた時間はあっという間に過ぎ、もっと学生さんの生の声を聞く時間が欲しいという感想が多く寄せられました。

文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」が今年度末で終了することに伴い、この事業も今回で最後になるかもしれません、と言うと、企業の人事担当者のほとんどの方は、驚きと落胆の声をあげました。中には、私たちで経費を負担してもいいですから、ぜひ継続する方法を検討して下さい、と懇願される方もおりました。嬉しくもあり切なくもなる場面でした。

むつ市を除く、弘前、青森、八戸の三市は、COC+事業が終了しても市内にある大学に通う学生を対象に、今のまま求人活動を継続していけばそれですみます。しかし、むつ市の場合、事業終了後、いかにして学生たちにむつ市の企業の実態を紹介していけばいいのか喫緊の課題です。

青森 COC+推進機構
むつブロック・コーディネーター
坂本　謙二

平成 27 年度採択 文部科学省
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）
オール青森で取組む「地域創生人財」育成・定着事業

発　行　　令和元年 10 月
青森中央学院大学 COC＋事業推進事務局
〒030-0132　青森市横内神田 12
TEL: 017-728-8161(直通) FAX: 017-738-8333
E-mail: acgu-coc@aomoricgu.ac.jp